

# 巻頭言

## 曲がったスプーン賞と イグノーベル賞

MIYAZAKI Shigeru

寒地酪農衛生研究領域長 宮崎 茂



今

年は山中教授がノーベル賞医学・生理学賞を受賞されましたが、その他にも毎年いろいろな賞が発表されて話題になります。New Zealand Skeptics という懐疑論者の団体が毎年発表している曲がったスプーン賞 (Bent Spoon Award) は、科学関係でのとんでもない誤報や批判的思考を欠如した報道に贈られる賞だそうで、今年 はホメオパシーレメディアーを取り上げた雑誌が2度目の「受賞」をしたそうです。レメディアーは水をしみこませた砂糖にすぎませんからそれ自体は有害ではありませんが、ホメオパシーによって必要な治療の機会を逃してしまうというマイナスの影響ははかりしれません。日本獣医学会など多くの学会が、ホメオパシーを排除すべきとの意見を表明していることとはご存じのとおりです。

ホメオパシーに限らず、無批判に、長崎大学の池田正行さんの言い方を借りれば思考停止状態で、物事を受け入れてしまったり、一面だけをとらえて判断してしまうことは、残念ながら少なくはありません。たとえば、血液型と性格、代替療法やフードファディズムの問題、無農薬・無添加だから安全、有機農業は環境にやさしく有機農産物は健康によいなど、科学的根拠に基づかずに、あるいは物事の一面だけを見て事実として受け入れてしまっている例は数多くあります。

たとえば、「食品添加物を使っていないから安全」という科学的根拠のないフレーズがテレビなどで頻繁に使われています。食の安全で話題になる頻度は化学物質の方が高いのですが、より大きな被害が出ているのは食中毒細菌による食中毒です。科学的根拠に基づいて安全な使い方をしている保存料によって、食中毒事故を減らしたり、食品の廃棄量を減ら

したりできることを忘れてはいけません。

最近海外で話題になっているにもかかわらず日本であまり報道されていないのは、有機農産物が安全性や栄養の面で慣行栽培のものに比べて優位性があるわけではないという指摘です。オーガニック食品推進者は、オーガニック食品の優位性、特に栄養面での優位性を強調していますが、イギリスの食品基準庁は、「オーガニック食品と通常食品の間には栄養素の含量や何らかの健康影響について大きな違いはない」という系統的レビューを2009年に発表しています。先日も、アメリカ小児科学会が、「オーガニック農産物が慣行栽培に比べて安全性が高かったり栄養的に優れているという科学的根拠はない。オーガニックの方が高価なので、オーガニックを選ぶことによって必要な野菜や果物の摂取量が少なくなってしまうのであればそれは良い方法ではない」と助言しています。有機農業が本当に環境にやさしいのかについても多くの議論があるところです。

ところで、今年のイグノーベル賞でも日本人研究者が音響賞を受賞しました。彼らが開発した「スピーチジャマー」は、話している人の声を0.2秒ほど遅らせて本人に送り返すことにより、不快感を感じさせておしゃべりを黙らせるという、思わず突ってしまう装置です。先入観や常識にとらわれない批判的な視点や、広い視野からの柔軟な発想が重要であることを冒頭で書きましたが、頭が固くなっていることを実感せざるを得ない年齢になり(年寄りには頭が固いというのも先入観でしょうか)、スピーチジャマーのタイムラグを1日とか1週間とかに延長し、過去の自分の発言や発想を自動的に振り返って検証できる装置ができれば、と考えるのは私だけでしょうか。